

シャイネスが信頼に与える影響について  
1220564 森かこ  
指導教員 三船恒裕

## 研究背景

世の中には、対人関係をうまく結べず、苦勞している人々が存在する。なぜうまく対人関係を結べないのかについて、さまざまな先行研究が存在し、原因として、性格特性や状況が存在する。中でも、人々が対人関係を結びにくい性格特性にシャイネスが存在する。

## 研究目的

シャイネスに着目した先行研究は複数存在するが、シャイネスが信頼に影響を及ぼすかどうかは調べられていなかった。そこで、本研究では、人との交流において欠かせない信頼とシャイネス、特に対人不安傾向と対人消極傾向との関係について検討する。対人不安傾向の強い人は、他者からの評価を気にする特性があるため(菅原, 1998, p. 22)、身近な人が信頼ゲームのプレー相手である場合、身近な人からの評価を気にすることで、見知らぬ他者が信頼ゲームの相手の場合と比較して、信頼しやすくなると予測される。また、対人消極傾向は人との関わりを避ける特性があるため(菅原, 1998, p. 22)、信頼ゲームの相手が身近な人であっても、見知らぬ人であっても信頼しなくなると予測される。

## 調査・分析方法

調査は、クアルトリクスを使用して実施した。まず、信頼ゲーム全2パターンによる、利益を相手に委ねる行動を測定した。次に、全15項目で構成された菅原(1998)のシャイネス尺度を使用し、個々人の対人不安傾向と対人消極傾向の強さを測定した。加えて、山岸(1998)の一般的信頼を測定する5項目、社会的用心を測定する5項目、新たに開発された信頼尺度4項目により、信頼を測定した。信頼ゲームの結果と、シャイネス尺度の相関関係と、信頼ゲームの結果と一般的信頼の相関関係を分析した。

## 分析結果

信頼ゲームとシャイネスとの間では、見知らぬ人を想定した信頼ゲームと対人消極傾向の間でのみ、負の相関が見られ、対人消極傾向が強い人ほど、信頼しない傾向があることが示された。一方、身近な人を想定した信頼ゲームと対人消極、対人不安それぞれの間で相関が見られなかった。また、シャイネスと一般的信頼との間でも対人不安と一般的信頼の間での相関は見られず、一般的信頼と対人消極傾向の間でのみ、負の相関が見られた。この相関分析の結果より、対人消極傾向が強い人ほど、信頼しない傾向があることが示された。

## 考察・結論

研究の結果、シャイネスの主要素である、対人消極傾向が強い人は、見知らぬ他者一般が信頼の対象となる場合、信頼の程度が下がる傾向があることが示された。一方、対人不安傾向が強い人と信頼の間では関係が見られなかった。これは、対人不安傾向を測定する尺度は、ネガティブな情動を測定するものであり、ネガティブな情動そのものが、信頼行動に影響を与えることがなかったためだと考えられる。本研究を通して、シャイネス傾向が信頼の度合いに及ぼす影響を明確にすることはできなかったため、今後の検討課題だといえる。